

資料3 楽しさの要因をふまえた望ましさの要因による授業の枠組

T-S Communication 型授業	楽しさの要因	S-S Communication 型授業
<p>1. 授業者の学習者に対する寛容さ 先生が質問に喜んで答えてくれる 6 先生と気軽に交流できる 7 先生が生徒の反応に気付く 8 生徒の英語の力に応じて授業を進める 15</p>	<p>参加表現の楽しさ 個人とグループの発表 考える活動とグループの活動 英文の内容理解 考えを英語で表現</p>	<p>5. 良好な人間関係構築 自分がどのように成長したのかを友だちから伝えてもらえる 28 自分にはどんなよいところがあるのか気づく 33 身の回りの人々と仲良くやっていく方法を考えることのできる 29 英語で友だちと考え方を伝え合える 34</p>
<p>2. 授業者の学問的専門性 文法の背景がわかる 10 文法や単語にくわしい知識を持つ先生が担当する 18 母語と英語の違いや共通点がわかる 26</p>	<p>言語文化的知識の楽しさ△ 文化の違い 語源 教科書の国々</p>	<p>6. 気づき 先生が授業のほとんどを英語で進めてくれる 32 なぜ勉強するのかを考える機会を与えてくれる 31 感動のある 35</p>
<p>3. 授業の見通し その日に勉強する内容を最初に説明してくれる 14 取り組む活動の意味を説明してくれる 25 年間計画を示す 19 先生がしっかり準備をしてくれる 12 生徒の提案や考えを取り上げてくれる 27(I) 受験や就職またはそれ以外で英語の勉強がどのように社会に役立つのかを考えることができる 13,24</p>	<p>教科書外の学びの楽しさ 映画の表現 外国での体験談 英字新聞 教科書以外の本</p>	<p>7. 教材選択・異文化間コミュニケーション 必要があれば英語以外の教科の内容を取り上げる 30 日本文化や社会問題を取り上げた教材(さまざまな地域の文化・環境・戦争・人種差別)で学ぶ 36,38,41, 44, 45 なぜ国や地域によって文化が違うのかが学べる 42 さまざまな国や地域の人々の考え方や、自分たちの考え方の共通点や違いを考えることのできる 47 他の国や地域の人たちと日本が仲良くやっていける方法を考えることのできる 39</p>
<p>4. 授業者の学習者に対する自律支援 自分の成長が自分でわかる 11 授業以外でも英語を勉強したくなる 17 自分で勉強できるようになる方法を教えてもらえる 16 予習・復習の仕方を教えてもらえる 9,22 辞書の使い方など勉強方法を教えてもらえる 23 プリントを使って勉強できる 20 自分に合った勉強方法が選べる 21</p>	<p>多様な学びの楽しさ ビンゴ、パソコン</p>	<p>8. 授業者の学問的専門性 研究をしている先生が担当する 37 先生がさまざまな考え方や文化に対して理解を示せる 43 世界で起こっていることがらを知っている先生が担当する 46 先生が教材に対する自分の考えを示し議論できる 40</p>

指導技術

授業者の資質

継続と努力 励ましと肯定的評価 使いこなす

末尾の数字は質問番号
 1 から 8 までの下位範疇はいずれも信頼性係数(Chronbach の α)が .80 以上